

平成24年度第2回小牧市地域協議会市民会議会議録

1 開催日時 平成24年9月28日(金)

午後1時30分～午後3時55分

開催場所 小牧市役所 本庁舎4階 404会議室

2 出席者

(1) 市民会議委員 19名

(2) 事務局 協働推進課：鍛冶屋課長、石川課長補佐、堀田係長、葛谷
福祉課：江口課長補佐

社会福祉協議会：田中課長 7名

(3) 傍聴者 2名

3 会議資料

会議次第

資料① 平成24年度各種団体との意見交換会実施報告について

資料② 先進地事例および活動事例について

「第2次小牧市地域福祉計画・地域福祉活動計画」概要版

資料③ 制度(案)の基本事項について

資料④ 今後の検討の進め方について

4 会議内容

1 会長あいさつ

2 平成24年度各種団体との意見交換会実施報告について

3 先進地事例および活動事例について

4 「地域福祉計画」について

5 制度(案)の基本事項について

6 今後の検討の進め方について

【会長】

皆さん、こんにちは。

この新庁舎で第2回目の会議を開くということで、非常に気分も新たに、私のほうは東部地区ですけれども、東部地区は稲の穂がこうべを垂れて、非常に秋の風情を醸し出しておるといような状況でございます。

本日は第2回の地域協議会市民会議にご参集いただきまして、ありがとうございます。

本日の欠席は1名ということで伺っておりますから、非常に出席率がいいと喜んでおる次第でございます。

さて、地域協議会という新たなコミュニティ組織を考えていくということで、第1回目を7月12日に行いました。このときは、皆さんも記憶にあると思いますけれども、いろいろな立場から委員に出てきてもらっていますので、多様な意見が出てきたということで、非常にいいことではないかなあと喜んでおります。

そして、これらの意見をこれから進めて、市民がすばらしいと思われるような組織をつくっていくということでございます。そのためには、ある程度誰もが感心していただけるような組織をつくらないといけません。そのことについて、委員の皆様方は前向きに考えていただいていると思っておりますし、また、今までなかった組織をここでつくるわけですから、前途多難な問題があるのではないかと、こんなふうに考えております。

それは委員の皆さん方のお考えも多様でありますので、その辺は最終的にどうまとめていくかということもみんなで考えていかないかなだろうと思います。

それからもう1つ、事務局としても、まだはっきりした方向性といえますか、前回の広報でしたかね、「支えあい、助け合い」とかいうような言葉がありますけれども、まさにそういう方向に向かってこの会議は進んでいくだろうと思っております。

今日も次第の2番から6番までの項目についていろいろ説明がございます。ですから、皆さん方はお気づきになった点をどんどん質問していただき、また、意見がございましたら忌憚のないご意見を出していただきまして、この会議を実りあるものにしていきたいと、こんなふうに思っております。

私もこの会議は、これから先どんな方向に進んでいくか、はっきりして

おりませんけれども、何とか皆さん方の意見をまとめ、かじ取りをしていきたいと思っておりますので、ご協力ほどよろしく願いしまして、挨拶にかえさせていただきます。よろしく申し上げます。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは、会議の議事進行にあたりましては、会長によりしくお願いいたします。

【会長】

早速ですけれども、次第の2、平成24年度各種団体との意見交換会実施報告について、事務局の報告を求めます。

【事務局】

それでは、意見交換の実施結果について御報告をする前に、本日の会議の趣旨につきまして簡単にご説明をさせていただきたいと思っております。

前回の第1回市民会議では、昨年度の意見交換会の結果などの取り組みや、地域協議会の制度概要をスライドでご説明させていただきました。それを踏まえまして、本日の会議では、今年度6月から7月にかけて実施をした意見交換会の結果や、これまでの先進事例の内容をご説明させていただき、委員の皆様にご理解を深めていただきたいと思いますと考えておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、意見交換会の実施結果の報告に入らせていただきます。

[事務局から資料に基づき、説明]

【会長】

どうもありがとうございました。今、説明がありましたけれども、何かご質問、あるいはご意見でもありましたらお願いします。

【委員】

意見交換会を実施されたのは、それぞれ6つの区長会と、あと保健連絡員、老人クラブ連合会、子ども会連絡協議会と民生児童委員、この4つと

というのは、市とどういう関係かというのをちょっとお聞きしたいのと、あ
とここでちょっと抜けているのが、やっぱり地域協議会というのは、地域
の住民が地域を守っていかうみたいなところだと思うので、中学生という
のかな、昼間に地域に残っているのは、やっぱり高齢者の方と子育て中の
母親だったり、一番力になるのは中学生とか高校生かなというところがあ
るので、これだと肝心の一番力になってくれる中学生がいないのかなとい
うので、中学校が入るとか、学校関係の方もちょっと入ってほしいなあ
と思ったのと、実施報告を聞いて、やっぱり皆さん必要だなと思ってみえ
るんですよね。

あと、新しく組織ができるとすごく負担になるというふうに書いてある
んですけども、新しくなるんじゃないかと、今まで皆さんがやっているこ
とをもう一度整理してみて、皆さんがやっていることは、地域協議会の組
織だとこんなことになるんですよというので、増えるのではなくて、もう
ちょっとやっていることが住民にもわかりやすく、やっている皆さんもや
りがいがあるような形のものにしていけば、私は全然負担にもならないし、
担い手も重複はしていないんじゃないかと思えますし、やはり中学生とか
高校生の力も借りたいなということをおもいます。

【会長】

ありがとうございました。

ご意見が主体ですね。あとは、中学生、それから高校生をどう入れてい
くかということについて、事務局、何かお考えがありますか。

【事務局】

今の中学生というのは、おっしゃるとおりそういう若い世代、ボランテ
ィア精神だとか、コミュニティの重要性を知っていただくためにもそうい
う世代にご参加いただきたいと思えますけれども、まだそこまで手が広げ
られないのが現状です。貴重なご意見として承りたいと思えます。

あと、なぜこの団体で今回実施したのかということなんですけれども、
私ども地域のほうで活動されている団体の方をいろいろピックアップした
んですけども、今回は既存の設定された会議の中で、何とか時間をいた
だいて、ご説明をしながら意見交換会にするという形をとりました。

わざわざ地域協議会のために別に設定をしていただくことは、大変負担

になるということを心配しまして、今回この4団体と実施をしましたがけれども、区長会の理事会を開催したときに、これではまだ不足じゃないかという意見もいただきましたので、今後、できるだけ機会を捉えて、こういう意見交換会なり説明会なりをしていきたいと思えます。以上です。

【会長】

ありがとうございました。そのほかございませんか。

【委員】

従来の農家が多い地域の区長さんと、それから新しく住宅団地ができた地域の区長さん、それぞれ地域協議会についての考え方について、多少は違っているんじゃないかと思いますが、そこら辺のところは何か感じられたことはありましたか。

【事務局】

農家が多いというか、昔から小牧に住んでみえる地域というのは、区なり、自治会の組織なり、コミュニティがしっかりしていて、割とうまく回っているところが多いという感じを受けました。

一方、新興住宅のところにつきましては、やはり高齢化が進んでいて、単身の高齢世帯があつて、実際に区の活動をやっていこうとしても、なかなかそういう人材がお見えにならないだとか、高齢でなかなか外に出て、地域の活動に協力できない方が増え、活動が停滞しているというような、そういうこれからのことを心配する声が多かったような印象を受けました。

【会長】

はい、ありがとうございます。

その件について、区長会の地区会長さんがみえますので、どうかその辺、新興住宅のこと、それから従来の区のことなどで何かお気づきになった点がありましたら、この機会に教えてください。

地区会長さんのほう、何かお気づきの点はありませんか。

【委員】

篠岡地区ですが、端的にいいますと、篠岡地区は、桃花台がありますの

で人口が多い。桃花台が約330haで、大きさをいくと上末と下末を併せたくらいしかない。そこに22区あります。残りの篠岡周辺で10区。そういうことになりますので、やっぱり本当の密集された市街地で、しかも完全に都市計画されたまちと、それから未整備地ということで、やっぱり新しく住まわれた人がいる地域、それと神社仏閣があって、昔からのつき合いがある地域と、やはり違った面があるんですね。

そういうものをやっぱり上手に話し合ってやっていかないと、考えが違ふとかいう問題が出てくるのではないかなということをおもいます。

また、先ほど担い手の話をされましたが、確かに高齢者ばかりとか、区長のなり手がなとか、そういうこともありますので、せつかく今、地域協議会で新しい部署を立ち上げられて、市の職員も張りつけられたわけですので、市の職員も余り変わるべきではない。すぐ異動だと、せつかく覚えたらまたかわってしまう、市役所へ行ったら違った人がおるといふことのないように、これは一番最初ですので、協働推進課の人はなるべく変わらずに、立ち上げから、軌道に乗るまで頑張るぞという気でおっていたかないと、地元も気合いが入らなくなりなりますので、その点では特にお願いしたい。

【委員】

北里地区は、高齢化率がこの市でナンバーワンのところでございまして、新しいというか、若い方が入ってこない。空港の問題があつたり、調整区域という格好で家が建たず、せいぜい倉庫が建つ程度で、さらにトラックがぼんぼん走り、迷惑だなというような地域になっております。

そういうことで、逆に若い子が外に出ていってしまい、まして新しい方というのはこの地域へ来ていただけないというのが実態でございまして。

ですから今の区、あるいは住民の方でやっていくというのが一般的な形になっていくわけです。

それから、先ほど中学校や高校のお話が出ましたが、私ども北里地区では、中学校の校長先生がわざわざ区長会の席に見えまして、中学生をどんどん区の行事に参加させたいと、例えば盆踊りだとかそういったものにも参加させたいという意見がありまして、今年は盛大に皆さんに来ていただきました。

しかし、中学校だとか高校生の親の話を聞くと、土曜日、日曜日しか行

事ができませんので、そうなるとう部活だとか、それから塾だとかいうのがありまして、とても行事に出られないという声が多いのが現状であります。

ですから、なかなか中学校や高校、特に高校なんかになると、もう学校があちこちにありますので、どのように指導していくかということが非常に微妙になってきちゃうんですね。中学校はある程度学区がありますから、校長先生のところへお話しに行けばいいんですが、今言いましたように、中学生ぐらいというのは非常に部活が盛んな状況のときなんですよね。

ですから、非常に私は難しいというふうに思いますが、やはり土曜、日曜に、できるだけ出るようにということで、校長先生のほうから指導してもらうというのは非常にいいことだとは思っています。

今回初めてそういうようなケースがありまして、多くの方が参加されてきて、中には盆踊りの司会をやらせてくれとか、それから太鼓をたたかせてくれとかいうような、非常に積極的な方も見えますので、そういう方を入れてやっていくというのも一つの方法かと思っておりますけれども、どういう格好で集めるかというのが、ちょっと難しいと私は思います。

以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。

そのほかの区長さんのほうでお気づきの点がありませんか。

【委員】

私は地域協議会に限らず、市民活動のほうをいろいろやったりしていて、そちらのほうでも活動しております。そんなことで、地域協議会をどういう形で持っていくかとか、どうしたらいいかということにつきましては、ぜひ皆さん方のご意見を承って、よりよい地域協議会になってきたらいいなと思っています。そんなことで、できれば全部の地区で立ち上がるのを期待しております。

【会長】

どうもありがとうございました。そのほかご意見ございませんか。

(発言する者なし)

【会長】

ないようでしたら、また最後に皆さん方のご意見をお聞かせ願うということで、次に移りたいと思います。

それでは、次第の3、先進地事例および活動事例についてということで、事務局に説明を求めます。お願いいたします。

[事務局から資料に基づき、説明]

【会長】

ありがとうございました。

事務局から活動事例などの説明がありましたが、皆さんのほうで、何か今の報告に対してご質問ありましたら、ご意見でも結構ですけど。

【委員】

素朴な話なんですけど、東近江市は合併しているわけですが、その前は何という市でしたか。東っていうから、彦根とかあっちのほうですよ。

【事務局】

少し確認させてください。

【委員】

それから、背景が小牧市と一番近いのは高浜市であるというふうな説明でしたが、もう少し詳しくといいますか、小牧市と人口も違うし、財政力も違うし、産業立地も違いますよね。一般的というか、私なんかが受けとめるのは、背景が一番近いというのがいまいち入ってこないの、その辺を教えていただきたいのと、それから僕の頭には松阪市が結構やっているんじゃないかと思うんですが、この5つの先進事例という中で、ほかの事例は検討されなかったのかなと。これは何か勘ぐれば、小学校区を選んだみたいな印象を持っておるんですけど、ほかのくくりはなかったんですかね。

それから、実際全部行かれているのかなというのも教えていただければと思います。

【委員】

さきほどの関連ですが、高浜市では6年間かかって全部できたということですが、一部しかできていない時期、あるいは地区、そういうときの交付金だとかはどのようにされていたのか。

つまり、予算の関係ね。それをついでに高浜のところで説明していただけたらありがたいです。以上です。

【事務局】

最初のご質問の東近江市の合併のお話です。東近江市の合併の概要としては、平成17年の2月11日、1市4町合併です。八日市市、永源寺町と五個荘町、愛東町、湖東町の合併で東近江市ができ、その次に、平成18年1月1日、1市2町の合併があって、今度は旧東近江市と能登川町と蒲生町というところの1市2町の合併という状況です。

次に、高浜市の背景なんですけど、先ほど申し上げましたように、小牧市ほどではないですが、財政力もそんなに悪いわけではありません。合併も今のところないということ、また自治会の加入率についてもそんなに悪くないのですが、小さいまちですので、将来的にはいずれ合併ということも視野に入ってくるだろうという考えであったということです。

そういう状況が来たときに、高浜市というのが吸収されないように自立したコミュニティが必要だということです。

小牧市の場合も、すぐに合併があったり財政難があったり、自治会加入率が低いわけではないですけども、将来を見据えてというところで、比較的近いのではないかとということで背景は考えております。

あと先ほど、これはどういうふうな事例をとったかということなんですけれども、決して小学校区に誘導しようとしている訳ではありません。確かに小学校区以外の単位も存在します。

豊田市は中学校区ですし、新城市は旧の合併前の自治体を、おおむね中学校区のような感じなんです。

しかし、やはり小学校区というのが比較的というか、かなり多いのではないかなということを思っております。

地域協議会のあり方というのが、まず一番基本となるのは、自治会や区でありますし、自治会や区で今いろんな問題があって担い切れないものを、1つ大きな地域というか、範囲で一度やってみようということだと思いま

す。そうすると、やはり次に規模が小さいことになる小学校区が一番いいのではないかなということだと思います。

松阪市の事例はどうかということなんですけれども、実は三重県というのは名張市、松阪市、伊賀市など、非常に地域協議会のようなコミュニティ活動が活発でありまして、この三重県の事例を見ますと、やはり一番先行していて、非常に全国的にも先進事例になっているのが名張市ということで、1つの参考として紹介をさせていただいたということです。

最後に、高浜市の6年かかった間の交付金のお話なんですけど、高浜市以外にもですけど、名張市以外は地域協議会に対する交付金というのを、新しい交付金で用意をしているものですから、旧の補助金を廃止したりということはせずに、新しい交付金で用意しています。

ですので、立ち上がったところは新しい交付金が入りますし、立ち上がらないときは、地域協議会に対する交付金というのが入ってこないだけで、もともとの自治会ですとか子ども会の補助金というのはそのまま、旧来の状態でずっと継続をしているという、そういう形でございます。

【委員】

主な事業のところ、ハード事業を含むというのは2市あるんですけど、どのようなハード事業をやられているのでしょうか。

【事務局】

主な事業のところ、池田市ともう1つ、上から4つ目、名張市のところに、ちょっとまた太文字になっていますが、ハード事業を含むと書かせていただきました。基本的に地域協議会というのは、地域活動が主になるものですから、ハード事業でさっきの公園のバスケットゴールを設置するとか、道路舗装をやるとかいうのはないんですけど、この池田市は、予算提案権というやり方ですので、この道路舗装が余りにもひどいからということで、協議会で合意形成ができれば、この道路舗装について市に予算要求することもできるということです。

また、名張市については、スタートが財政非常事態宣言ということで、市が公園の維持管理ですとか、そういうこともままならない状況になり、このままではいけないということで、地域で一番やらなくてははいけないことを話し合っ、その交付金の中で、公園のトイレを直したりということ

もやっていただきたいということで、実際にやってみえる協議会もあるということでもあります。

最後に、さきほどの回答漏れで、5つとも視察に行ったのかどうかということではありますが、全部1度は視察に伺っております。

ただ、市の職員との意見交換を2時間程度行なったものや、例えば名張市なんかですと、実は区長会の行政視察で昨年行かせていただきまして、区長さん方と一緒に、1日目は市の職員から制度のお話を聞いて、次の日は各協議会のほうにお邪魔させていただいて、協議会の役員さんたちと意見交換をさせていただいております。

ですので、聞いた情報というのが、市の職員からだけ聞いたものと、地域の人と直接会話できて、いろんなことを聞いたということの温度差、情報の差が実は若干ございます。足りないことがあれば、改めて確認したいと思います。

【委員】

先進事例というのはすごく重要だと思うので、改めて質問させていただきますけど、三重県の松阪市がいいなと思うのは、例えば本居宣長だとかの歴史的なところだとか、史跡もあつたり、農業公園じゃないんですけど、公園整備なんかで大きな公園があつてというようなところで、小牧市が抱えている課題とかなり共通するものがあると思います。

それで、本当に地域ごとにこのスケールで検討していく課題とは何かというのを、また小牧市の抱えている具体的な課題とは何かいうところになげたいんですけど、話が飛びますけど、先週の土曜日に岩崎先生が講演された中で、1,800のやり方があると言われました。

1,800通りというのは、それぞれ自治体ごとに課題が違う、あるいは組織のつくり方が違うという意味だから、より参考になるところがあると思ったら、松阪市をもうちょっとインターネットで調べれば、個人的には情報を得られますけど、やはり行政同士のやりとりの中で、情報を得て、教えていただけるといいなというふうに思うんですね。

それが1点と、それから愛知県下の中でも、今、豊田市とか新城市がありましたけど、比較する意味では小学校区しかないというのは、資料としては不足しているのではないかなと思いますので、それが1点と。

それともう1点は、小牧市の財政力だとか、あるいは産業立地だとか思

うと、刈谷市だとか安城市だとか、あの辺の人口や財政力、あるいは合併の将来性のことも含めて、もっと小牧市と密接なところが浮かぶんですけど、そこはこういう地域協議会的なことはやっていないんですかね。この3つ、まずお聞かせいただきたいんですけど。

【会長】

はい、ありがとうございます。

今のご意見に対して事務局、何かありますか。それともなければ、次回までに調べるということでもよいですが。

【事務局】

十分な回答にならないかもしれませんが、まず松阪市ですが、状況としては、平成24年度になって、まだ動きがないぐらいの組織ができたという程度で、実際に活動がまだされていない状況だと聞いております。

多分、やっとな組織ができて、市長さんがすごく頑張られたというふうに聞いておりますが、全地域に何とか準備委員会のようなものが立ち上がったばかりの状況だと思います。

活動に至っては、会議だけの状況ではないかなあとということで、ちょっと今回はお示しをしております。

あと、豊田市の事例とかそういうものを入れたらどうだということですが、今回は本当に第1回目の会議の場で、イメージがちょっとつかないから、他市の事例を出してほしいということでありましたので、単位をこの場ですぐに検討しようとかそういうことではないです。

次回以降になってきますけど、単位決めなんかも検討していかなければいけないと思いますが、そのときには、仮に小学校だったらこういうふうだし、中学校だったらこういうふうだしという検討材料をちゃんとお示しさせていただくということと考えております。

それから、刈谷市や安城市という小牧市に近い状況を持っているところにつきましても、ご指摘がございましたので、一度確認をして、改めてご報告させていただきたいと思います。

【委員】

資料の特徴・課題というところで、それぞれの自治会ということで、小

牧市は区会というのか、自治会と区会の違いが多少出てきておるんじゃないかと思います。小牧市の場合は区会ということで、住民が引っ越してくると必ず区会のほうへ入ってくださいよということで、区のほうへの会費も取られる。自治会のほうが自由参加みたいな形になっているから、平均的に30%、40%という大変少ない活動で、自主的に自分たちだけで活動しておるといのが、ほとんどではないかと思う。

そういうところでやむにやまれず、何かを考えなきゃならん、何とかしてすすめなきゃならんということで立ち上がってきたところであって、小牧市以外に全国に何市という市があるはずだけど、そこら辺のところは、今、刈谷がどうだ、豊田がどうだ、安城がどうだ、うちのところがどうだと言われると、そういうところはまだそういう課題も、やってみえるところもあるけど、話にもっていないというところは、さほどそういうことを感じない。

小牧市はそういうことを前もって考えていくということで、これから先、確かに取り組んでいかなきゃならん課題になるんだろうと思うけど、ここでいろいろな事例をたくさん出していただいて、ここで十分検討していただいて、どう進めていくかということをしつくりと考えてやっていきたいなあと考えておりますので、資料のほうはいろいろと出していただきたいなあとと思います。

それから、先ほどあったように、3あい事業がどうなるかとか、ここはどうなるかという、先ほど誰かが言われたように、子ども会も全部この地域協議会の中に入れて、その中でスポーツ振興会もそうだから、スポーツ交流部会、ここは福祉部会とか、そういう組織づくりという、これから先考えてやっていけば、そういうことはなくなるんじゃないのかな。

だから、区と地域協議会とのすみ分けはきちんとしなきゃいかんだろうと思う。そこへ入るか入らないかという事業も出てくると思います。

【委員】

この主な事業といってずっと載っているんですけど、今小牧市が狙っているのは、1つの区でやるのではなくて、複数の区を集めて、ちょっと大きな区にしてイベントであるとか、いろいろ事業をやろうということ計画されておるわけでしょう。

これ、今見ると、防犯灯の設置や維持管理、防犯パトロールなんていっ

たら、これ既に区で現状やっていますわね。だから、これをどれぐらいの規模の区にしてやっておられるのか分からない。

1つの区でやるんだったら、今やっていること、もう少しほかのほうの区にも推進、拡大していけばいい話であって、地域協議会で立ち上げる話じゃないと私は思います。

だから、1区じゃなくて、2区、3区や4区、5区とかにまとめて、何かの一つのことをやろうということをして市は計画されているわけでしょう。

この主な事業というのは何区ぐらいを想定してやられておられるのかというのが知りたい。

説明をいろいろ聞く限りは、喫茶事業にしてもそうですけれども、何区くらい集めて喫茶事業を展開されておるのか、1つや2つのところで集めてやるんだったら、喫茶店は幾らでもありますから、別にそこで話をすればいいんじゃないかと思います。

やはりもう少し、小牧市が狙っている地域協議会の趣旨に合った事業を確認する、聞くというようなことでないと、全部が全部ではありませんけど、各地区でやっていることだと私は思います。

だから、もう少し大きな区でまとめたような事業を教えていただかないと、手前どもの区だけで言うておかんですけど、3あい事業もやってますし、ほとんど今の話だと小学校も参加していますし、老人も参加していますし、そうすると何をやるのかというのが、我々としてはそういうことを教えてもらいたいです。

中には大きな区でやっておられる事業もこの中にあると思うんですけど、それがもうちょっと具体的に、こんなことをやっておられるから、こういうことを皆さん参考にしてやられたらどうでしょうかというふうに言われると、こっちも心強くやれるんですが、この辺のことはもうやっていますというふうに言いたくなってしまう。

【事務局】

資料に挙げてある事業をどの規模でやっているかというのは、これはそれぞれの市で地域協議会、小学校区単位なら小学校区単位でやっている事業です。

あくまでも私どもが考える地域協議会というのは、今、区で十分やれている区もありますし、そうでない区も多分あるだろうというところで、こ

のままの状況ではいけないだろうということです。

もしそうであれば、一つ大きな組織単位、例えば小学校区単位ということで一度話し合いをしていただいて、やれている区、やれていない区が集まって、一度事業を整理してみようと、その中で、少し大きな単位でやったほうが効果もあるし、効率的だなあというものを一度考えていただくということです。

確かにこれを見ると、しっかりやられている区というのは全部やっており、必要がないということは、この間の区長会でもご意見をいただいております。

しかし一方で、実は恥ずかしいけれども、規模も小さいし、高齢化も進んでいるからなかなかできないという区の声も幾つかお聞きしておりますので、何とかそういう話し合いの場で話し合っていていただいて、その地域に合った課題について解決する方向で議論していただければと思っております。

先ほどご発言がありましたが、地域協議会で何でもかんでもということではなくて、話し合いの結果、その区で従来どおりやったほうがいいものについては区でやっていただければ結構ですし、これは一度大きな単位でやろうかということについては、そちらのほうでやっていただくというような整理が進んでいくのではないかと思っております。

【委員】

幾つか質問がありますが、先ほどの区のところと、それから地域協議会の事業ということで、区別というのがなかなかつきにくいということもあるんですけど、小牧市として原案というんですかね、もとになるようなたたき台があれば、出されたほうが理解しやすいのではないかなと思います。

先ほどの質疑にもありましたように、やっているんだったらもう必要ないよというような話も多分あると思いますので、今後の進め方として事務局に考えておいていただきたい。

また、組織について、余り詳しくは書いてないですけど、子ども会がどのようにタッチしているのかなあとか、ここまで進め方を考えていくと、お聞きしていても、やっぱり福祉関係とかパトロールというような話が中心になっていて、子ども会が活躍するような場所というのはどうなのかなというようなところが気になるころだなあと思います。

ほかには、広域的に進めていくということで、例えば子ども会なんかは人数が減ってきて、困っているような子ども会も多く、私は例えば2つの区で1つの子ども会で活動されてはどうかというようなことも考えているんですね。

例えば3つの子ども会を1つにまとめてはどうかというような、そんなようないい事例があれば、また聞いていただけたらいいかなというようなことを思っているものですから、よろしくお願いします。

【事務局】

また不十分な回答になるかもしれませんが、まず1つ目ですね、最初に、今後の進め方として何か市のほうから具体的な原案を出していただきたいということのお話であります、実は本日、一番最後のところでご説明をさせていただこうかと思っておったんですが、一応、今後の市民会議の流れとか、進め方というところで、今いろいろ市でこれまで実は先進地を調べたりだとか、あるいは様々な意見交換をやりながらということで、さっき財源の出し方であるとかということをいろいろご紹介させていただいたんですけど、私どももそれなりにいろいろ実は考えております。

ただそれが、もうこれならというところまで、実はまだ至ってないんですけど、3回目にはどの程度になるかはわかりませんが、一遍出させていただきたいなと思っております。

その地域協議会の具体的な制度設計の概要といいますか、案というようなものを第3回にお示しを一旦させていただいて、それを皆さんでこの場でご議論いただいて、修正したり、削除したり、追加したりという形で何とか制度はつくっていききたいなというふうに思っております。

もう1つの組織で子ども会の関わりというところなんですけど、これは、ちょっと改めて聞いてみないと詳細は正直分からないんですが、ただ1つ、名張市では昨年お邪魔したときにお伺いしましたが、部会のつくり方、15地区ありますけど、それぞれの地域性で、各協議会ごとで、自治会部会をつくったり、子ども部会をつくったりということで、最初のスタートが補助金の整理という目的があったので、子ども会、自治会に対する補助金が一括なくなってしまった、さあどうしようということで、まず協議会で一括交付金を受けて、それを分配するために部会をつくったところもあるというのを聞きました。

要は、もともとは自治会単位であった子ども会が、小学校区単位で固まり、そこで一括交付金を地域協議会が受け、地域協議会の話し合いの中で子ども部会にある程度の交付金をお渡しして、それぞれの地区でばらばらにやっていた活動、事業というのを小学校区単位で一つでやるような方向になってきたということを知っています。

【委員】

漠然と意見を言い合っても何も決まらないので、次回には、組織なら組織、単位なら単位ということで、ある程度の的を絞って話し合っていないとなかなか進んでいかないと思うので、もし事務局のほうで案を出していただけるのであれば、組織はこういう組織で、会長さんが1名、副会長さんは2名にするのか、3名にするのか、それから委員さんはどういうふうになるのか、その委員さんがどこに入るのかというようなことで、それを皆さんでたたいて、ここはこうしたらいいじゃないか、ここはああしたらいいじゃないかと一つずつ決めてくべきだと思う。

しっかり考えてしっかりやっていると、途中半端のものでは、一番最初にも言ったけど、途中半端のものになると大変だと思いますので、できるもの、できんところがあるだろうと思いますが、次回のときにいろいろたたき台にできる材料、各種団体ってどんな団体があるんだ、この団体さんが役員の中に入れるのか、入れんのかということも考えなきゃならない。子ども会だ、婦人会だ、老人会だ、それから、地域のボランティア団体なんかがいっぱいあると思うが、そういう人たちがここへ入ってやれるのかやれんのか、どうやってつくったらいいかということを考えられるようなたたき台をお願いします。

【会長】

今のご意見で大体まとめていただいたようなので、ありがとうございます。

それでは、この今の先進地事例については、この辺でやめさせていただきます。

次に移りたいと思います。

次第の4の地域福祉計画についてということで、事務局に説明を求めます。お願いします。

[事務局から資料に基づき、説明]

【会長】

どうもありがとうございました。

地域福祉計画についてということで、今説明がありましたが、何かご質問がありましたら、お願いします。

【委員】

人の生活とか、そういうことに踏み込むと必ず何らかの責任が発生するわけだよね。何かあった場合にはどうするんだという責任が発生してくるので、今うちの地区でも弁当を宅配か何か、婦人奉仕団なんかの方たちが独居老人のところへ弁当を一生懸命配ってみえる。そういうときでも、あれは安全なのかな、万が一間違いがあったときには誰が責任をとるんだということは、必ず責任が発生してきちゃうんだよね。

例を挙げると、我々は南部地区で青パトをやっているんだけど、それはボランティアで80名ほどの人が講習を受けてもらって、自分の都合のいい日に車に乗ってもらって、1時間か2時間、それぞれの地域を回ってもらっている。何かあったときには困るということで、2人ずつ乗ってもらっているが、事故が起きたときには誰が責任とるんだということが問題になる。一応保険も掛けてありますけど、保険以外の発生を、責任を転嫁された場合に、会長、代表者だからあなたですよと言われても、本当に困ってしまうわけです。

そういうことからすると、何かの行事ぐらいならいいけど、こういう場合はどういう責任をとってくれるか、そのところをしっかりとっていかないと、ボランティア、ボランティアだけではやっぱりやれないと思う。そのあたりはどうか。

【事務局】

責任の所在というところは、やはりかなり議論になる場所ですので、その辺はきちっと考えていかなければいけないなと思います。

ただ1つ、昨年実施した地域座談会の中でもありましたが、大分県のほうでお年寄りの孤独死を防ぐためにやっている黄色い旗運動という事例があります。

これは、毎朝玄関先に黄色い旗を出しておいてくださいというもので、出ていないところは、ご近所の方が気づくか、あるいは配達の方が気づくか、通学上の小学生が気づくか、ちょっとわかりませんが、なるべく気づかれる方が多い、無理なく気づけるような体制で、ご家庭のところへ声をかけましょうというような運動みたいなものでも見守りできているんじゃないですかというご意見もありました。

ですので、やはり責任という点では、確かにちょっと我々もどうだと言われると、正直答えられないところがありますが、なるべく見守れる場といたしますか、範囲を広くすることで、そういった責任分担が発生しないといたしますか、本当に困った事態にならないような見守りができていければなどというふうには考えております。

【会長】

ありがとうございました。よろしいですかね。ほかには。

【委員】

次に関係するかと思いますが、ここでやっぱり触れておきたいのは、地域福祉計画、地域福祉活動計画はこうして実際もう進んでいるということですが、では地域協議会の具体的な課題って何になるのかということに戻るんです。

要するに、既存の組織で不十分なところは活性化するとか改善するとか、また組織がないところは立ち上げるべきなのか、既存の組織でカバーしていけるのかとか、現状の組織のありようがどういう状況かということが確認された上で、この地域協議会を考えていかないと、この地域福祉計画、地域福祉活動計画がこれだけ充実して、今年度から進めておられる状況の中で、同じようなことを別でやり、この地域協議会も福祉関係のことを、全く扱わないのかということとまた非常に難しいところだと思いますけど、その辺はどういうふうにお考えですか。

【事務局】

全く別個につくっていくことは考えておりませんので、福祉課や社会福祉協議会と連携・協力しながら、地域によって効率的なものをとということで考えております。

現状の課題は何かというのは、実際には、その地域に入って行って、その各団体や区長さん、住民の方と話し合わないとなかなか見えてこないのかなと思っております。

昨日から始まりました6地区での地域座談会も含めまして、福祉課や社会福祉協議会と一緒に各地域に入ってそれぞれ具体的な話をしながら、地域の課題を抽出していきたいということで今後の進め方を考えております。

【委員】

私は民生委員の立場できょう出席をさせていただいておりますけど、先ほど事務局に福祉課の江口補佐や、社協の田中課長がおいでになっているということで本当にほっとしております。

というのは、この地域協議会はどうなるのか、福祉部門はどんなふうになるかなど、また、皆さんがご発言されたようなことをどのようにリンクしてやっていったらいいかなと思って心配しておりました。

だからそういう意味で、両輪のごとく、この地域協議会に関しては、協働推進課が事務局としてやっていただくわけですが、その一部として福祉部門があると考えております。

地域には民生児童委員が188名余りおりますが、そういう人たちをどう協働推進の事業に対してかかわりを持たせるかというようなことで、会議の折に、このようなことがありますよとお伝えしました。

こういうことに関して、いろんな事業を推進するということは非常に難しいものです。

この場では委員の皆様方が、いろいろな意見を何でも発表していただいて、最終的に事務局のほうで、ある程度まとめていただけるのではないかなと思っております。

ただ、ちょっと心配なのが、区長さんでも任期でかわられる方が多いし、私ども委員というのは2年ですが、何年までおられるのか、区長さんもかわる、いろんな役員がかわっていかれるので、それがきちっと伝わればいいんですけど、その辺が非常に難しいと思いますが、何とかやっていただければと思っております。

【会長】

そのほか、何かございませんか。なければ、私から事務局にちょっとお

伺いたいんですけども、今の委員さんのほうの発言があったことと、この地域協議会是一緒になっていくのか別々なのか、この辺はこれからの問題だと思いますが、何か事務局のほうでお考えがあったらお願いしたいと思います。

【事務局】

さきほどのご発言のとおりであります。

実は、本日第2回目に福祉課と社会福祉協議会に来ていただきまして、地域福祉計画のお話をさせていただいたというのは、私どもの中で、庁内でも連携をさせていただいておりますが、これから地域協議会と地域福祉計画を一緒になった形で、そういう方向で検討していきたいということで、福祉部門にも同席してもらったということでもあります。

【会長】

ありがとうございます。

そういうような助け合い、支えあいになってくるわけですね。

これでよろしいでしょうかね。特になければ、次へ移りたいと思います。

次第の5、制度（案）の基本事項についてということで、事務局の説明を求めます。

[事務局から資料に基づき、説明]

【会長】

ありがとうございました。何かご質問がありましたら、お願いします。

【委員】

盛んにボランティアとかいろいろ出てきますが、この組織はどういう結果になるのかちょっとわかりませんが、その中で、このボランティアさんの呼び名というか、お手伝いさん、こういうものがどの範囲までなのか。

協議会の単位と関係すると思いますが、ちょっと難しいじゃないかと思うのは、西部地区の例でいうと、西中がありますよね。西中さんの「ちょっとボランティア」ということで、年に数回、10名ほどですけど、毎回応援に来てくれますが、それも校長先生にお願いするわけでもないし、そ

こちらに頼んでやってもらうんですがね。確かに、喜んで来てくれます。

悪い顔して帰る子はいないんですが、そういう雰囲気になっていくボランティアさんと、集まらない場合に押しつけた場合、押しつけるとボランティアとは言わないかもしれないね。

組織が大きくなれば、そういう関係で子ども会とかに負担がいくような気がしないでもないんですが、ちょっと先の話になりますけど、いい例で言うと、そういう西中のボランティアさんは本当に、いつも声をいただいてありがとうございますと思っていますが、それが本当のボランティアだなあと感じます。

今後のボランティア活動について、多少お考えがあったらお聞きしたいなと思います。

【事務局】

ご指摘のとおりでありまして、ボランティア、ボランティアと言いながら、最初は、皆さん自主的に出てきていただくんですけども、それがだんだん強制になって、負担になって、活動が少し低下をしていくということは十分考えられることです。

そういう中で、少しでもボランティアの方がやってよかったというようなことがいただけるような制度というのを何とか仕組みづくりに入れていきたいと思っています。

しかし、最初は、割と勢いでいくんですが、その後、そこに新たな人材がなかなか入りにくいなあとというのが、いろんな市民活動団体や地域の活動の話を知ることがありますので、そういう新たな人材が気軽に活動に参加していただけるような、いいアイデアやノウハウがあったら、少しそういうものも制度として入れるものがあれば、入れていきたいなと思っています。

今のところはなかなか妙案がなくて、今のご指摘を解決するようなアイデアがないんですけども、先進事例などを研究しながら検討をしていきたいと思っています。ありがとうございました。

【会長】

ありがとうございました。

このあたりボランティアの関係で、何かお気づきの点ありませんか。

【委員】

一般の皆さんのボランティアに対する考え方というのが、こうであるというふうに考えてみえるイメージと、ボランティアをやる人たちがボランティアとはこういうものだよというイメージ、そのすれ違いが出てきております。

そういうことで、ボランティアというのは何でもいいから頼まれればやってくれる人、お金は要らない、自分で解決する、そういうような考えで見えますが、実際にやっている人たちの中には、やっぱりいろいろ金がかかるだとか、それから体も疲れるだとか、そういうことで難しい面があります。

この場で、ボランティアのことを細かく説明している時間がないので、次回のときにでも、必要があれば説明させていただきますが、そういうような考え方があるということ、皆さん、ご承知おき願いたいと思います。以上です。

【委員】

私のイメージの地域協議会は、限られたエリアのところの全員がボランティアでもあり、担い手でもあるなと思っていて、ポイント制というのが何か書いてあったんですけど、これは自分以外の人にちょっと助けになることをやってポイントをいただく。

でも、だんだん年とっていくと、担い手じゃなしに受け手になってくるんですね。その受け手は自分が担い手になれたときにためていたものを、受け手になったときに使えるみたいな形で、みんなが担い手であり、同時にみんながボランティアでもある。地域の全員が地域協議会のメンバーだということで考えています。

ただ役員が何人かはいると思うんですけど、あなたはボランティア、あなたは役員じゃなくて、地域全員が自分のできる人は担い手になり、できない人は受け手になるということで、それは年々変わってくるものだと思います。

だからボランティアってこういうもんだということではなくて、何かもうちょっと違う、みんながボランティアだよ、みんなが担い手だよというような地域協議会になっていくといいかなということを感じております。

【会長】

ありがとうございます。ご意見ということでよいですね。

そのほかよろしいでしょうか。では、次に移らせていただきます。

最後になりますが、次第の6、今後の検討の進め方についてということで、事務局に説明を求めます。

[事務局から資料に基づき、説明]

【会長】

はい、ありがとうございました。何かありますか。

【委員】

例えば3回目は10時からということですが、きょう、例えば1時半から始まって、もう4時前というふうにいる意見が出ればどんどん時間が延びると思うんだけど、時間が足りないんじゃないかと思いますが、どうですか。

【事務局】

3回から5回までは、制度案については3回で集中的にやりたいと思いますので、3回につきましては、時間厳守で午前中には終わるようにしまして、もし何かご意見がございましたら、4回、5回ということで少し時間の様子を見ながら進めていきたいと思いますので、よろしく願います。

【会長】

本日は、委員の皆様にご活発なご意見を出していただきまして、当初の時間よりもかなりかかりまして、先ほどもうちょっと時間とったほうがいいんじゃないかというようなご意見がございました。

議長が不慣れで申し訳ないんですけれども、これをもちまして、第2回の地域協議会を終わらせていただきます。

長時間に亘り、ありがとうございました。